

『合コン今昔物語』 作・菊地穂波

男1
女1
男2
女2
先輩

男1と女1が舞台上にいる

女2 ねえってば！！いいじゃんケチ！！
男2 ケチじゃないよ
女2 ケチだよ、ケチ中のケチだよ
男2 あのね、ワシは芦田第三中だよ
女2 いやそーゆう意味で言っていないから
男2 大体ねえお小遣いならお父さんやお母さんにねだればいいだろ
女2 父さんやお母さんに頼めないからおじいちゃんに頼んでんじゃん
男2 何に必要なんだ
女2 いいじゃん別に
男2 それじゃあ、ワシもあげれんよ
女2 なんでよ、私おじいちゃんの孫だよ？孫中の孫だよ？
男2 お前そんな名前の中学に通ってたのか、指定校推薦か？
女2 もういいから、お小遣い！！
男2 何に使うんだ
女2 言ったらくれるの？
男2 言ったららな
女2 ……合コンに行くの、だからお洋服とか化粧品とか新しいの買いたいの
男2 お前今なんて言った？
女2 だから合コンに行くの
男2 ちがくてその前の前だよ！！
女2 覚えてないよ！！
男2 ……懐かしいなあ
女2 は？
男2 合コンだよ

女2 え、なに、おじいちゃんも行ったことあるの？

男2 昔にな

女2 へえーやるじゃん

男2 ずっと昔に一回だけ

女2 で、お小遣いは？

男2 よしじゃあ、こうしよう

女2 え？

男2 ワシが初めて合コン行った時の話を聞かせてあげよう

女2 あー大丈夫です

男2 聞いてくれたらお小遣いあげるよ

女2 すごい！！そのシステム、笑顔で話聞ける

男2 じゃあおじいちゃん頑張って話しちゃおうかな

女2 頑張りはしなくていいから

男2 え？

女2 いや、老人が頑張るとさロクな事ないじゃん

普通でお願い、あと出来れば一分以内で

男2 ……

女2 もうはやく話してよ、このあと予定あるんだから

男2 (気を取り直して)…あれはワシがちょうどお前ぐらいの年の頃

今思うとめっちゃくちやな時代だった、日本全体がめっちゃをくちやくちやさせていた
そんな時代にワシは先輩に誘われて合コンに行ったんだよ

先輩に引っ張られるように男1が舞台場へ

男1 やっぱりダメです緊張してダメです

先輩 大丈夫だよ、お前は緊張してなくてもダメだから

男1 そうハッキリ言われると…

先輩 大丈夫、曖昧に言ってもお前はダメだから

それより身体の調子はどうだ？お前は虚弱体質だからなあ

男1 今日は、大丈夫です

先輩 そうか

男1 でもどうやって彼女を合コンに呼べたんですか？

先輩 なにお前から話を聞いた後に調べたら知り合いだったんだ

男1 知り合いだったんですか？

先輩 俺の友人の弟がよく行ってる酒屋の親父がその昔世話になってた煙草屋の
娘夫婦の隣の部屋に住んでる末っ子が彼女だよ

男1 それ知り合いつて呼びます？
先輩 呼ばなきや終わらなくね？
男1 いや始まってもないですけど
先輩 とにかく、お前が俺に話してくれた彼女であることは間違いないって事だ
男1 でもどうせ僕のこと（なんて）
先輩 （遮って）みなまで言うな、人間みなまで言ったら終わりだぞ
みなまで言わないから人は夢見れんじゃねえかよ
男1 先輩・・・今の言葉すげー響きました、メモしていいですか？
先輩 お前は本当にメモっ子だな
男1 メモは僕の動脈を走る馬ですから
先輩 ……何ていうかお前の日本語は病氣持つてるな
男1 （笑う）
先輩 笑うところなのか？そこは

女2 というかさ場所どこなの？
男2 ワシの部屋だよ
女2 宅飲み！！合コンなのに？
男2 言っただろ？その時は日本全体がめっちゃをくちやくちやして、めっちゃを
ゲーしようとする時代だったんだよ
女2 は？
男2 要はみんながみんな不安だったんだ、特にワシはな

先輩 お前は臆病だからな
男1 何ですかいきなり
先輩 いきなり何も昔からだろ、お前が臆病なのは
男1 まあそうですけど・・・
先輩 （何かに気づき）おっ来るぞ、足音が聞こえてきた
男1 ホントですか？
先輩 いいか、初めて会った時の印象っていうのは大事だからな
合コンは自己紹介から始まり自己紹介で終わるんだぞ
男1 そんな事言われたってどうすればいいんですか？
先輩 男らしさを積極的に出してけ
男1 無いですよ
先輩 無いなら嘘で作れ、得意だろ！！それでグツと掴むんだよ

男1 ……
先輩 上手くやれよ、さあ来るぞ

女1が来る

女1 あの今日は合コンに誘ってもらって、ほんとに

ありがとうございます、わたし、かおりと言います、今日は
その、よろしくおねがいます

先輩 かおりちゃん、よく来たね、俺は先輩よろしく(手を出す)

女1 よ、よろしくおねがいます(握手する)

先輩 (男1に)おい、お前も挨拶しろよ

男1 (妙にカッコつけて)申し訳ねえけど名前は事情があって言えねえ
でも周りからは燃えないゴミって呼ばれてる、好きな言葉は絶交
趣味は呼吸、ちなみに短歌は五・七・五・百・百で詠む
よろしく(手を出す)

女1 よろしくおねがいます(何故かチョキを出す)

男1 ……じゃんけんしてねえから

女1 あ、すいません!!(慌てて何故か踊りだす)

先輩 かおりちゃん?どうした?

女1 失敗を踊りで取り返してます!!

先輩 かおりちゃん、それ上書きしてる、失敗を失敗で上書きしてるから

男1 先輩、いいんじゃないの、踊らせてやれよ

女1 え?

男1 踊りてえんだろ?じゃあ踊れよ

女1 (嬉しそうに)はい!!(手を出す)

男1 いや踊れよ!!もう握手の時間過ぎてるから!!

女1 ……すいません、私、いつも失敗ばかりで、こうして折角合コンに
誘ってもらったのに…緊張しちゃって、また失敗しちゃった…

先輩 (慌てて)そんな事ないよ

女1 いいんです、緊張して失敗して色んな事が台無しになるのは慣れっこですから

私、帰ります、すいません(帰ろうとする)

男1 ……タカシです

女1 え?

男1 僕の名前、タカシ、周りからもタカシって呼ばれてます、こっちこそ

すいません、嘘ついてました、あの、僕も実は緊張してて、臆病なんです
臆病で…そうすると嘘ついちゃうんです…

先輩 まあ簡単に言うとは卑怯者だな

男1 え？

女1 タカハシさん・・・

男1 いやタカシです

先輩 かおりちゃん、せっかく来たんだ、合コンしていきなさい

女1 ……はい

男1 でも短歌を五・七・五・百・百で詠むのは本当です

女1 あ、はい・・・

先輩 さあ、ほら二人とも、もっと近づいて、合コンの始まりだ

女2 とうかさ二対一なの？

男2 そうだよ

女2 普通二対二じゃない？

男2 まあな、確かに今こうして思い出すと攻撃的なフォーメーションではあるな

女2 老人がカタカナ使わないで、鳥肌立つから

男2 え？

女2 で、どうなったの、かおりさんとおじいちゃんは

男2 そうだな、何と言えぱいいかなあ

女1 あの、先輩って？

男1 僕の先輩

先輩 かおりちゃんも僕のこととは先輩でいいから

男1 かおりちゃんって休みの日はなにやってるの？

女1 ……休みの日は弟や妹の世話をしています、でも最近は工場が忙しくて

男1 すぐえな工場で働いてるなんて部品と部品を付けたり離したりしてるんでしょ？

女1 別に凄くないです、みんなそこで働いてるし

男1 何言ってるんだよ、すげーよ、それすげーよ、あ、そうだすげーで言ったら

先輩もすげーんだよ

先輩 (照れて) おいおい、いきなりなんだよ

男1 (嬉しそうに) いいじゃないですか

先輩 先輩が飛行機乗りなのは秘密だろ

男1 (女1に) すごくくない？

先輩 半端ない飛行機乗りさ

女1 すごく・・・

男1 あと二時間しか寝なくても七十二時間活動出来るんですよ？
先輩 まあ頑張れば九十六時間いけるけどな
女1 あとは単三の電池を昨日の余り物で単一に出来るぐらいかな
女1 ……何者なんですか？
男1 だから、先輩だよ
先輩 (何かに気付いて) 静かに…
男1 どうしたんですか？
先輩 音がする、空から
女1 え…？
先輩 この音…・・・Bートウエンティーンだな
男1 空襲…
先輩 大丈夫、五百キロ離れてる
女1 耳やばくないですか？
男1 先輩の耳は通信機いらずで有名だからね
先輩 アイアムアサイボーグだからね
男1 かおりちゃん、先輩はサイボーグなんだよ
女1 ……あの
男1 ん？
女1 さつきから二人とも敵性語を使っていますが、それはどうなのでしょう？
先輩 そんな軽佻浮薄な言葉をこんな時に使うなんて
先輩 ……ミスターかおり
女1 私、女です
先輩 確かにアメリカは敵だ、今、日本はアメリカと戦争をしている
女1 それに先輩はお国の為に戦う人で
先輩 (遮って) それでもな、言葉に罪はないんだよ、言葉っていうのは
それ自体が一つの愛すべき文化なんだよ
女1 ……私にはわかりません
男1 あの先輩今の言葉、メモっていいですか？
先輩 おう、メモれメモれ
男1 はい(と声にだしてメモる) 私にはわかりません
先輩 あ、そっちメモるんだ…
女1 やっぱり私帰ります、こんな時に合コンだなんて私どうかしてました
男1 ちよっと待ってよ
女1 今はみんなが一丸となってお国の為に頑張る時です、それを合コンだなんて
男1 まだ何にも机の上に乗っていないの!!!
女1 じゃあはやく机の上に乗って下さい!!!それ見たら帰ります

先輩 わかった！先輩が持ってきたものがあるからそれを乗せよう

冷やしてあるから、それを持ってくるから！！

先輩がいない間、二人はちゃんと合コンするんだぞ！！

先輩はける

気まずい沈黙

男1 ……何持ってくるんだろうね

女1 知りません

気まずい沈黙

男1 僕は短歌を詠んでるんだ

女1 ……さっき聞きました

男1 とうか絵を書いてるんだ

女1 別物じゃない！！

男1 はは

女1 いや、ははじゃなくて……あの質問していいですか？

男1 なに？

女1 タカシさんは恥ずかしくないのですか？

男1 え？

女1 あなたの先輩は飛行機乗りとして

お国の為に頑張ってます、なのにあなたは絵なんて書いてて

女の私だって毎日工場でお国の為に働いてるっていうのに

男1 男とか女なんて関係ないよ

女1 こんな時に絵なんて書いてるあなたに言われたくありません！！

男1 ……僕は身体が弱いから徴兵検査で落ちたんだ

女1 え？

男1 情けないだろ？だから毎日、ほらここに座って窓の外を眺めてる

女1 ……

男1 君の工場はここから見えるんだ、ちょうど2ヶ月前

工場から帰る君を窓から見た、君は道に咲いてる花を立ち止まって見ていた

それを僕は窓から見ていたんだ、とても綺麗だった

女1 ……やめてください

男1 ありきたりな話で申し訳ないんだけど、一瞬にして心を奪われた

心の底から美しいと思った、僕はね、そう思った気持ちを忘れないように

絵を描き始めたんだ、君の・・・君の働いてる工場の絵を

女1 え？

男1 ん？

女1 ……え、工場の絵を描いてるんですか？私じゃなくて？

男1 煙突も描いてるよ

女1 ……

男1 ……かおりさんの事を思いながら描いてる

女1 なら私を描きなさいよ！！

男1 え？

女1 私の事を思いながら絵を描いてるなら、どうして私の絵を描かないんですか！！
というか、そもそも話の流れ的に私でしょ描くの、次点、花でしょ

男1 そーゆうもんなの？

女1 知りませんですけど！！

男1 じゃあ、今、描いてみようかな、かおりさんの事

女1 別にいいです、それに全然、汚いカッコだし御化粧だっしてないし、髪だっ
ボサボサだし、それに左利きだし

男1 でも綺麗だよ

女1 ……絵の具とかあるんですか？

男1 今はない、戦争中に絵の具なんてそうそう買えないよ

女1 ……

男1 でも大丈夫（ポケットから紙を出して）ここに紙がある
そしたらこっちのものさ

絵描きは紙さえあれば無敵

あとは指をちゅばちゅばしてヨダレを絵の具にして書くよ

女1 え？

男1 いや、だから指をちゅばちゅばしてヨダレを絵の具に

女1 は？

男1 ヨダレ画だよ

女1 気持ち悪る、なにそれ・・・

男1 だって絵の具買えないから！！

女1 だとしてもヨダレ以外にあるでしょう！！

男1 ないよ！！

女1 じゃあ、なにさっきの話も、私の事を思いながら工場の絵を
ヨダレで書いてたんですか？

男1 それは違う、工場の絵はちゃんとした大きな絵なんだ
だから、近所の人たちのヨダレも使ってる

女1 ……

男1 ……はやく終わらないかな

女1 ……終わるわよ、今に日本が勝つんだから

男1 そうだね、先輩だって戦いに行くんだから

女1 うん

男1 さっきの質問に答えるよ

女1 何よ

男1 恥ずかしい、ホントは凄く恥ずかしいんだ

女1 え？

男1 恥ずかしくないかって聞いただろ、恥ずかしいよ

僕だって米兵の一人や二人簡単に殺してお国の勝利の為に

戦いたいよ、それが出来ないのが・・・とても恥ずかしい

でもさ、そう思ってるのにどうしようもなく僕は臆病なんだ

女1 ……

男1 それってさ理由にならないんだよ

先輩が戻ってくる、何かを持つてる

先輩 すまんな遅れて、ほら冷やしといたものだ(置く)

男1 なんですか、これ

先輩 何って、冷やした千人針だよ

女1 千人針!!

先輩 机に食べられるもの以外置いちゃいけないのか?

女1 なんで冷やしてるんですか

先輩 冷やしちやダメか、千人針冷やしちやダメか!!

千人針がぬくいと蒸れるんだよ!!

女1 は?

先輩 飛行機乗りあるあるだろ、大体、レイテ島沖で蒸れてくるんだよ!!

女1 知りませんよ!!

先輩 あと雑なやつのは玉になって痒いし、いらぬよ千人針なんか!!

男1 いいですか?そんな言っ

先輩 俺だってこんな雨の偶数月上旬には思わず言っちゃうよ

男1 今日、晴れで7月下旬ですけど・・・

先輩 なんで俺が千人針を冷しておいたかわかるか?

男1 ちよつとわからないです・・・

先輩 少しは考えろよ、馬鹿

男1 先輩？

先輩 ……とうとう飛行機乗りの出番がまわって来たんだ

男1 じゃあ……

先輩 ああ、明日、出撃する

女1 すごいじゃないですか、これでお国の為に活躍できますね

男1 すごいや……先輩なら沢山のアメリカ兵を殺せるよ

女1 そうよね、だって先輩は半端ない飛行機乗りなんでもんね

男1 そうだよ、先輩は半端ない飛行機乗りさ、ねえ先輩！！

先輩 ……

男1 先輩？

先輩 俺がいない間、二人の合コンどうなった？

男1 どうって……まだ始まったもないよ

先輩 なんで？

男1 なんてってそりゃあ、先輩いないと

先輩 俺がいないと何も出来ないのか？

男1 いやだって……

先輩 俺は明日にはいなくなるんだぞ！！

男1 だって戻ってくるじゃないですか

先輩 戻ってこれないかもしれないんだぞ！！

男1 え？

先輩 なんで合コンしないんだ！！タカシ！！お前が言ってた女の子だろ！！

なんでもっと合コンしないんだよ！！

男1 先輩？

先輩 かおりちゃんも！！なんだよ！！お国の為、お国の為って合コン一つもまともに出来ない人間がお国の為になるか！！

男1 ちよっと先輩どうしたんですか？

先輩 しろよ、合コン、わいわい盛り上がれよ！！天皇だーれだってやれよ、軍部の言うことは絶対ってやれよ！！

なんで、やらないんだよ！！

女1 そんな言われたって、私は、合コン初めて来たし、合コンってあんまりわからないし、それに左利きだし

先輩 そんなの理由にならない！！じゃあ、なんで来たんだ合コンに！！

女1 誘われたから！！

先輩 誘われたら何でも行くのか？ええ？誘われたらどこでも行くのか！！

急行で行くのが早いけど誘われたら徒歩で行くのか！！

女1 行くよ！！

先輩 ……え？

女1 行くよ……だって誘われて嬉しかったから……

先輩 ……

女1 合コンが実際どんな事やるのかそんなの知らないよ、でもさ
男の子と女の子が集まってなんかワイワイやったりするんでしょ
楽しくワイワイやって、男の子とおしゃべりしたり、どっか！！
なんか！！褒められたりするんでしょ！！そんなぐらいは私だって
知ってるよ……じゃあ、嬉しいじゃん、そんな場所に誘われたら
ちよう嬉しいじゃん！！

男1 かおりさん……？

女1 戦争でお国の為、お国の為って、頑張って、そりゃあお国の為に頑張るのは
当たり前だし、当然だよ、わかってるよ、でもさ、ホントはちよつとでいいから
私の為にも頑張りたいんだよ、髪の毛もこんなボサボサじゃなくて髪飾りの
羽のついたやつでまとめてみたいし、お洋服だって、一度だけ街で見た
黄色のスカートはいてみたい、爆弾で焼ける前にあったんだよ、窓に
飾ってあった黄色いスカート！！それに御化粧だってしたい
口紅もしたいし、なんかこうパタパタしたいし、ニキビやだし！！
ホントは右利きになりたいし！！

合コンって、そーやって私の為に頑張った私がちゃんと認められて
褒められるところでしょ？そんな場所に誘われたら
ちよう嬉しいに決まってるじゃん！！

先輩 ……すまん、ちよつと言いすぎた、先輩なのに後輩の立ち位置で
物を考えてしまった

女1 ねえ、一つだけ教えて

先輩 なんだい？

女1 合コンってなに？

先輩 ……人と人が集まって、それから何か話したりするんだよ
女1 それはそうでしょうよ

先輩 かおりさんはタカシの事をどう思う？

女1 ……臆病者でちよつと卑怯だと思う

男1 え？

先輩 かおりさんもそう思うよな

男1 え？

先輩 タカシは昔から臆病だった、けど卑怯者だなんて知ったのは俺もつい最近なんだ
男1 ちよつとぼく胸が痛くなってきました……

先輩 ずっと一緒にいる俺が最近気づいた事をおりちゃんは今日の

合コンで気づいた、これって何て呼ぶ？

女1 なんて呼ぶ？

先輩 奇跡って呼べないかな？

女1 無理だと思います・・・

男1 僕、動悸ときつげ凄くなってきました・・・

先輩 でもさそんな事に気付けるってやっぱ奇跡みたいなもんなんだよ

ポロっと出てくるその人の本当を気付くのが合コンなんだよ

男1 本当・・・

女1 ハッキリ言っただいいですか？

先輩 どうぞ

女1 意味が分からなくて私も動悸ときつげが凄いです

先輩 ・・・・え、大丈夫？

女1 結局、合コンって何か全然わかりません

先輩 その人の本当に気付いて嫌いになったり好きになったり、まあいいかなって受け入れたりするって事だよ

女2 今のところ、おじいちゃんが臆病で卑怯者だって事しかわからないけど

男2 ええ！！

女2 そんな驚かないでしょ

男2 他にもっとわかったことあるだろ

女2 だからあれでしょ先輩って人が言いたいのは、自己の実存性を考えたときにある種の関係付から他者を通して真の自己それは虚像的な自己を確認して

男2 いや、わかるが哲学者のそれだよ

女2 で、それからどうなったの？はやく話して

男2 大きな嘘、付いてたんだ、それを正直に言った

女2 ・・・・どんな嘘？

男2 臆病と卑怯を炒めて、茹でた情けなさの上にかけたみたいなの

女2 それパスタじゃない？

男2 上から粉恥ずかしさをかけて

女2 粉恥ずかしさってなんだよ！！

男1 あの・・・

先輩 (遮って) 静かに・・・聞こえる、またBートウエンティーンだ

女1 また空襲？

先輩 いや大丈夫、七千キロ離れてる所の音だから

女1 またも耳!!
男1 あの!!
先輩 どうした、なんだよ
男1 ……あの一つ先輩に言わないといけない事があります
先輩 ……なんだよ
男1 ずっと、付いてた嘘言います
先輩 どうした、突然
男1 かおりさんも聞いてください
かおり え、え?
先輩 タカシ?
男1 ぼく、臆病です。それですげー卑怯です……
でも、そんな僕でも合コンやりたい、かおりさんと先輩と
合コンやりたいんです……だから本当の事……嘘付いてたこと言います
先輩 え?
男1 合コンは最初自己紹介から始まるんですよ?
ぼくまだちゃんとしてないから、五・七・五・百・百しか
自己紹介してないから……ちゃんと行ってちゃんと合コンしたいんです
先輩 ……言えよ、聞いてやるから
男1 ぼく、徴兵逃げました
女1 え?
男1 徴兵検査で落ちたんじゃない
醤油一升のんで血圧あげて、肛門に生肉つけて痔だと言い張って
ワザと落ちたんです、嘘ついて逃げたんです、かおりさん
さつき僕は恥ずかしいって言った、それはホントだよ、でもそれよりも
嘘みたいに大きい臆病と卑怯さがホントの僕なんだ
女1 なんて?
男1 なんて? 決まってるだろ!! 戦争が怖いからさ!!
僕は死にたくない!! 誰も殺したくない!!
女1 卑怯者!! 非国民!!
男1 そうだよ!! それが僕さ!!
女1 恥を知りなさい!!
男1 知つてもなお僕は僕だ!! どうしようもないんだよ!!
女1 そんな理由にならない!!
男1 ……だからすげー辛いじゃんか
先輩 知つてたよ俺はお前が逃げたこと
男1 え?

先輩 お前が醤油飲んでる音聞こえてたもん
男1 え？

先輩 ちやうどその時、俺、飛行訓練でお前の上空にいたんだ
女1 耳やばあ・・・

男1 ・・・何もかも適わないや
先輩 そりゃあ俺は先輩だから
男1 (笑って)・・・そりゃそうか
先輩 さあ、自己紹介が終わったところでようやく合コンが始まる訳だが
先輩は緊急出動しなくてはならない
女1 は？

先輩 連絡が来てな、まあ厳密に言えばさつき司令部での会議の声も聞こえてさ
女1 もう耳！！
先輩 そろそろ正式に連絡が来る
男1 でも明日だって
先輩 戦況は一刻を争う、俺ほどの飛行機乗りはひっぱりだこさ
男1 ・・・

先輩 色んな部隊から半端ない飛行機乗りたちを集めた半端ない部隊に配属された
先輩の活躍ですぐに戦争も終わる、そしたらすぐに戻って来る、
スキップで戻って来るよ
・・・いいかい？先輩が君たち二人の分まで米兵を殺してくる
君たちがもう殺したりする必要のない分まで殺してくる
この先輩が出動するんだ、当分は君たちに回って来ないさ
きつと君たち二人は偉く退屈するだろう、だからその間、合コンを続けなさい
もつともつとお互いの好きなおところと嫌なおところを見つけてなさい
それには長い時間がかかる、でもそれでこそ良い退屈凌ぎにはなる
男1 ・・・

先輩 それはいつしか、合コンじゃなくて恋って呼ばれるものになるかもしれない
・・・タカシ、嘘を付いて逃げた罰だ、先輩が帰ってきたら教えてくれ
今日は合コンの始まりだったのか、それとも恋のはじまりだったのか
どっちだったのか、教えてくれよ、約束だ
男1 ・・・メモします
先輩 馬鹿だな、そんなぐらい自分で覚える
・・・ かおりちゃんも
女1 ・・・なんですか
先輩 黄色いスカートきつと似合うと思うよ
女1 え？

先輩 さて、行ってくるか、千人針も冷えた所だし、
二人とも、じゃあ・・・またね

男1 先輩!!

先輩去る

男1・・・花を眺めていた時の横顔

女1 なに？

男1 最初に見つけた君の好きどころ

女1・・・なによ

男1・・・

女1 (ため息ついて) あれね、勘違いしてるけど、花じゃないの犬のウンコ眺めてたの
すごいとぐる巻いてたから気になって気になって

男1 え？

女1 嫌いになるなら今のうちだよ

男1 嫌いにならないよ

女1・・・じゃあそーゆうところかな

男1 なに？

女1 最初に見つけたタカシの好きどころ

男1・・・ありがと

女1・・・こちらこそ

女2・・・あーわかったわかった、それがおばあちゃんとの馴れ初めなんでしょ

男2 違う違う

女2 え？

男2 この話にはあさん全く関係ない

女2 関係ないの!!

男2 ないだろ

女2 だろってなんだよ、じゃあ、その二人とはどうなったのよ

男2 先輩は死んだよ、アメリカの船に突っ込んで

女2 ちよう下手じゃん操縦、なんで？半端ない飛行機乗りだったんでしょ？

男2・・・神風特攻隊知らない？

女2 あーなんだっけ？次の大河ドラマだっけ？

男2・・・

女2 で、その女の人は？

男2 ……先輩よりも前に死んだよ

女2 え？

男2 ちょうど2日後、空襲でね

女2 ……へえ

男2 ……ワシだけが生き残った、ワシだけが生き残ったんだよ

間

女2 良かったじゃん

男2 え？

女2 おじいちゃんが臆病で卑怯で嘘つきだったからお父さんが生まれてお母さんと
出会って、今こうして私がいるんじゃない？！

男2 ……

女2 おじいちゃんが臆病で卑怯で嘘つきだったお陰だよ

男2 ……(笑って) そうだね

女2 じゃあ、3万

男2 ……(財布から出して渡す)

女2 じゃあ私、行くから、じゃあね(行こうとして)

男2 待ちなさい

女2 なによ

男2 お前、合コンに行くんじゃないだろ

女2 え？

男2 デートに行くんだろ、だからワシに頼んできたんだろ？

女2 ……内緒だからねマジで、もし言ったら保険証折るから

男2 おい

女2 なに

男2 そのスカート似合ってるじゃないか

女2 は？

男2 沢山見つけなさい

女2 なにをさ

男2 ワシらが見つけられなかったものを、沢山見つけなさい

女2 見つける？なに？入れ歯？予備の入れ歯ならあったよ洗面所に

男2 いや違うよ、え？ほんとに話きいてた？

と、言ってる間に女2は出て行ってしまふ

了